

立川市第4次文化振興計画 令和4年度の主な取組状況

(令和5年7月1日現在)

I ふれる、たのしむ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～

市民の文化活動が活発化し、継続できる環境づくりを進めるとともに、鑑賞者として、暮らしの中で自然の文化芸術に触れ、楽しむことができるよう取り組みます。

1. 文化芸術の活動やイベントの充実

①市民の文化芸術活動支援 【重点取組事項】

■市民文化祭

- ・長い歴史を有する文化協会が立川市民文化祭として、例年10月から3月にかけて開催しております。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残る中でも、徐々にコロナ禍以前に執り行われてきた、各地域文化会や各種文化団体の事業が再開されてきました。文化協会全体の「市民文化フェスティバル」(11/6(日)バレエ・11/12(土)～13(日)展示・2/12(日)公演)も開催することができました。

■地域学習館まつり

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から限られた学習館のみでの開催となっていた地域の学習館まつりですが、令和4年度は感染症の影響が残る中でも、コロナ禍以前のように、社会教育関係団体等の発表・交流の場として、6館の地域学習館で「地域学習館まつり」を開催することができました。

■アール・ブリュット立川

- ・作品展「アール・ブリュット2022」
女性総合センター・アイム(8/30(火)～9/3(土))、高松学習館(9/6(火)～19(月・祝))、立川タクロス mini ギャラリー(9/15(木)～28(水))で、展示やワークショップを行いました。また、女性総合センター・アイムでの展示期間に合わせて、同じ建物内にある市の中央図書館ではアール・ブリュットに関する資料が展示されました。

- ・ウォールペイントプロジェクト「ドリームロード」

令和4年1月より、(株)立飛リアルエステートの高さ2.7m、長さ180mの壁に2年計画で絵を描くウォールペイントプロジェクト「ドリームロード」も進行中です。

- ・東地下道アートプロジェクト

令和5年3月から、立川駅東地下道の壁画を描く「アートのまち立川東地下道アートプロジェクト」が始まりました。年度をまたいで、令和5年6月に完成しました。

②文化芸術イベントの開催

■立川いったい音楽まつり

- ・3年ぶりに5/21(土)・22(日)に開催された第11回立川いったい音楽まつりには、140団体の参加があり、17,400人の来場がありました。
- ・5/15(日)には、たましん RISURU ホールでアメリカ空軍太平洋音楽隊 Pacific Showcase による前夜祭ライブを開催しました。

■立川市民オペラ

- ・立川市民オペラ 2023 を3/18(土)・3/19(日)に行いました。演奏はTBSK 管弦楽団で、オーディションで選ばれたソリストとともに、市民オペラ合唱団が出演するほか、スタッフとしても多くの市民が関わりました。また、令和6年3/23(土)・24(日)には、立川市民オペラ 2024 ドニゼッティ作曲 歌劇「愛の妙薬」の上演を予定しています。

■立川市地域文化振興財団の鑑賞事業・普及事業

- ・財団が、たましん RISURU ホールで、クラシックや歌舞伎、演劇などの公演を実施するとともに、学習等供用施設や児童館など市内各所で、落語や音楽などの公演を行いました。

■立川シアタープロジェクト

- ・市は、財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（たちかわ創造舎）と実行委員会形式により、地域の劇場文化の活性化や人材育成及び立川からの演劇文化の発信を目指し、平成28年度に「立川シアタープロジェクト」を立ち上げました。

- ・「子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台」、「子ども未来エンゲキ部」

令和4年度は、クリスマスシーズンに演劇を市民に届ける「子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台」のvol.6を開催する事ができました。コロナ禍のため感染症対策を取りつつ、12/23（金）～25（日）にたましん RISURU ホールの小ホールにて、演目「青い鳥～チルチルミチルの冒険～」を5公演行いました。来場者は773人（大人401人、子ども354人、招待18人）でした。ワークショップ「子ども未来エンゲキ部」では「青い鳥……」で使用する樫の木の大王の制作と、劇中で踊るダンスの紹介動画の作成を行い、親子で参加してもらいました。

- ・「市民創作ゼミ」

令和4年度からの新規事業として、中高生以上を対象にした「市民創作ゼミ」を全3回で実施しました。高校生～40代までの参加者がおり、演劇のプロット制作をゼミナール形式で行いました。

- ・今年度の予定

令和5年度は、子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台 vol.7として「王さまコンテスト～はだかの王さまとロバの耳の王さま～」を創作し、12/22(金)・23(土)・24(日)に、たましん RISURU ホール・小ホールで上演します。また、関連企画として、作中に登場するどちらの王さまがえらいかの投票を、図書館などで事前に実施することを検討（図書館側への打診はこれから）している他、子ども未来センターにて劇中で使用する舞台美術をプロの指導のもと、演出家や俳優とともに子どもたちが制作するワークショップ「子ども未来エンゲキ部」を実施し、物語や演劇の世界を深める取組も行います。

「市民創作ゼミ」も引き続き開催し、令和5年度は「アート作品から演劇を発想すること」をテーマにし、優れたプロットは令和6年度のファーレ立川アートミュージアムデーでの発表を予定しています。

2. 文化芸術の活動や発表の場の充実

①市内公共施設や公共スペースの活用

■公共スペースの活用

- ・財団が、女性総合センターアイムでのコンサートや、学習館などを活用して「どこでもステージ」として落語会やコンサートなどを企画しました。

■旧多摩川小学校

- ・旧多摩川小学校有効活用事業につきましては、平成 27 年度から「たちかわ創造舎」が、「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」とともに、「交流等文化創出事業（コミュニティ・デザイン事業）」として演劇など多様な文化創造活動を展開してきました。
- ・ほうかごシアターとして、平日夕方、放課後の時間に子どもも大人も気軽に楽しめるプログラムを開催してきました。「よみしばい」の上演（30 分程度）や、映画上映を行いました。

■子ども未来センター

- ・子ども未来センターでは、指定管理者と石田倉庫のアーティストが連携して、「子ども未来センター美術部 美術部長はアーティスト」を 9 月・2 月に実施しました。また、「カッティングシートで子ども未来センターを飾っちゃおう」を 6 月・11 月・3 月に行いました。その他にも、「まんが絵の描き方教室」、「ヴァイオリン・グループ・レッスン」、「演劇ワークショップ」など計 119 回の文化芸術講座を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大により中止になっていたイベントもほぼ復活させることができました。

②民間施設の文化芸術活動への活用推進

■サンクタス立川ギャラリー

- ・緑町にあるマンション「サンクタス立川」の西側壁スペースを、管理組合の協力を得て、ギャラリーとして無料貸し出ししています。令和 4 年度は申請がありませんでした。

＊令和４年度の成果指標については、新型コロナウイルス感染症の影響は前年までに比べれば減ってきたものの、依然として各種イベントの開催制限や収容定員及び時間制限等を自主的に行うこともありました。そのため数値が前年までよりは回復してきたものの、コロナ禍以前に比べると減少している状況となっています。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 4 年度末	目標値 令和 6 年度末
日ごろから文化芸術に触れる機会があると思う市民の割合	38.4%	46.1%	48.2%	52.0%
財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47,500 人※	73,640 人	37,673 人	81,000 人
たましん RISURU ホールと子ども未来センターの来場者数	701,044 人※	793,211 人	516,257 人	830,000 人
市民文化祭、地域学習館まつり来場者数	30,807 人	29,031 人	15,229 人	35,000 人

※平成 26 年度の値を使用（平成 25 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため）

Ⅱ はぐくむ、ささえる～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～

だれもが文化芸術に触れる場や機会を充実させるとともに、アーティストやボランティアなど文化芸術活動のつくり手や支え手の人材育成・支援に取り組みます。

1. だれもが文化芸術に触れる機会の創出

①子ども対象文化芸術事業の充実

■小学校ファーレ立川アート鑑賞教室

- ・財団が、ファーレ立川アート鑑賞教室を実施。市民ボランティア団体のファーレ倶楽部が、市内全小学校の５年生にアート作品を案内しました。

■小・中学校訪問事業等

- ・財団が、小学校訪問事業として、音楽（19校）、落語（13校）、アート（5校）、ダンス（7校）のプログラムを実施するとともに、小学生吹奏楽クリニックや小学生演劇体験事業を実施しました。（中学生吹奏楽クリニックは新型コロナウイルス感染症の影響により中止）。

■キッズ・ワークショップ等

- ・財団が、「たちかわワークショップフェスタ2022」を開催するとともに、音楽や工作など4事業の子ども向けワークショップを実施しました。

②学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進 【重点取組事項】

■国立音楽大学との協定による各種事業

- ・学生の文化芸術活動支援や市民への文化芸術に触れる機会の創出等のため、市と連携協定を締結している国立音楽大学の協力により、同大学の学生やOBによる各種演奏会や小中学校の音楽鑑賞教室、講演会などの事業を行いました。

■アール・ブリュット立川

- ・障害のある人もない人も共に暮らしやすい立川を理念に掲げて活動しているアール・ブリュット立川実行委員会への支援を行いました。

また、文化振興推進委員会の委員として施策に対する意見等を反映していくため、令和元年からアール・ブリュット作家または実行委員会会員にも参加いただいております。

2. 文化芸術の担い手の支援

①文化芸術に関わるボランティアの育成

■文化芸術のまちづくり協議会実施講座

- ・文化芸術のまちづくり協議会が、アートを応援して支える市民を育てる「アート・サポーター養成講座」を実施。令和4年度はコロナ禍による文化芸術活動の停滞からの再始動を想定して、入門となるような講座を行い「アート・サポーターって何するの？立川アート・サポート入門講座」というタイトルで講座を行いました。全3回の

講座を行い、実際に活動しているボランティアの話を聞いたり、実際の公演でのボランティア体験を通じて「アート・サポーター」という活動を知ってもらいました。

令和5年度からは新たに2名の方がボランティアとして登録されました。

②アーティスト活動の支援

■たちかわ創造舎のインキュベーション・センター事業

- ・たちかわ創造舎（旧多摩川小学校）の3F オフィスフロアに、芸術系4団体が在居しています。演劇やダンス、舞台芸術やチョークアートなど、たちかわ創造舎を拠点として活動を展開しています。

■多摩フレッシュ音楽コンサート

- ・東京多摩公立文化施設協議会主催の「多摩フレッシュ音楽コンサート」を財団が実施しています。令和4年度からは「ピアノ部門」と「声楽部門」を隔年での開催に変更し、「ピアノ部門」のみを実施しました。また、前年度の声楽部門とピアノ部門の受賞者のために、ソロリサイタルの機会を提供しました。

■文化芸術のまちづくり事業補助金

- ・令和4年度は8団体が新規に文化芸術のまちづくり事業補助金・奨励金の交付対象となり、前年度以前に事業を実施できず持ち越しとなった2団体を加えて10団体が、実際に事業を実施し経費に対し交付を行いました。なお、令和5年度以降に事業の実施を持ち越している団体はありません。
- ・令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、市内で活躍しているが活動を自粛又は縮小せざるを得なくなった文化芸術活動を行っている市民団体に対し、下支えとしての支援「文化芸術活動臨時支援金」の交付を104団体に支援しました。

■アート・マーケット

- ・クラフトアート作家に発表と販売の機会を提供するために実施しています。財団によるものは、例年たましん RISURU ホールロビーでの開催をしていましたが、感染症対策のため中止となりました。ファーレ立川アート管理委員会主催のものは、令和4年度は春と秋のファーレ立川アート ミュージアムデーにて開催しました。

■市役所ロビーコンサート・水曜コンサート

- ・財団が実施する、たましん RISURU ホールの水曜コンサートに国立音楽大学の学生や若手アーティストに出演していただきました。市役所ロビーコンサートは中止となりました。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 4 年度末	目標値 令和 6 年度末
財団が展開する子ども対象事業と子ども未来センターの文化芸術支援事業の参加者数	2,999 人※	9,012 人	6,870 人	10,000 人
文化芸術活動ボランティア登録者数	101 人	139 人	151 人	160 人
財団が展開する事業のうち学生による公演数（累計）	35 回	145 回	172 回	260 回
文化芸術のまちづくり補助金補助対象事業数（累計）	36 事業	65 事業	95 事業	100 事業

※平成 26 年度の値を使用（平成 25 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため）

Ⅲ つたえる、とどける～文化芸術の意義を伝えていく～

文化芸術活動の継続的発展やまちの魅力向上を目指し、文化芸術に関する情報の積極的な発信、文化財保存や伝統文化の継承支援等に取り組みます。

1. 文化芸術を活用し、広く発信する取組

①文化芸術資源を生かしたシティプロモーションの展開

■ファーレ立川アート保全・活用事業

- ・街区のビル所有者や市民団体のファーレ倶楽部、市などで構成するファーレ立川アート管理委員会が、「ファーレ立川アート 保全・活用方針」（平成 28 年 3 月）に基づき作品の維持・保全を行い、市民ボランティアのファーレ倶楽部による清掃等も行われました。
- ・ファーレ立川アートのブランド価値の向上や国内外への情報発信等を目指し、街区を美術館に見立てた複合イベント「ファーレ立川 アートミュージアム・デー」を 10/9（日）及び 3/12（日）に開催しました。同イベントでは、企画展、アートツアー、ワークショップ等を催し、ファーレアートの周知やシティプロモーション等に取り組みました。

その他、ツアー作品案内アプリ「ファーレ立川アートナビ」や多言語のパンフレット、関連グッズなどを活用した周知などに取り組みました。

■立川まんがばーく

- ・指定管理者の特徴的な自主事業である令和 4 年度の立川まんがばーくの利用者数は、61,402 人でした（入場者数・開館時間の制限あり）。コロナ禍以前の利用者数より少ないものの新型コロナウイルス感染症による活動自粛の流れは徐々に薄れ始め、令和 3 年度と比較すると 14,366 人の増となりました。

②事業者・民間イベント等との連携

■＃たちフェス、Sound of Christmas 2022 への参加

- ・立川駅北口に広がる商業施設 GreenSprings と立川 STAGE GARDEN で 8 月に行われた＃たちフェスに財団の仲介でアーティストが参加しました。12 月に行われた Sound of Christmas 2022 には市民オペラ合唱団が参加。誰もが自由に無料で鑑賞できるイベントに参加し発表の機会となりました。

■立川よいと祭り

- ・立川よいと祭りについては、実行委員会に助成するとともに、協働事務局を財団が担っています。令和4年度は当初の8月の開催から10月に延期になったものの3年ぶりに開催することができました。

2. 文化財・伝統文化を伝え、生かす取組

①文化財・伝統文化の継承、市史の編さん【重点取組項目】

■市史編さん事業

- ・先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌の6部会が、巡見や資料の調査・収集、古老や関係者からの聞き取りにあたり、成果として資料編「先史」と調査報告書「古代・中世編1」を刊行し、市役所本庁舎、歴史民俗資料館及び市内一部書店で頒布しております。
- ・事業の周知については、9月と3月に広報紙「たちかわ物語」を発行し、市施設の窓口等に配架するとともに市ホームページに掲載しました。
- ・講演会については、12/11（日）に女性総合センターアイムにて「考古学と自然科学で読み解く先史時代のたちかわ」を共通テーマとし、新型コロナウイルス感染症対策等を行いながら、平成31年度以来3年ぶりに対面により開催いたしました。60名の方々が参加し、実施したアンケートでは好評のご意見を多数いただきました。
- ・5～7月に、国営昭和記念公園で市史関連展示を開催し、市民への周知に努めました。

■歴史民俗資料館・古民家園

- ・歴史民俗資料館・古民家園等で、体験学習会や講演会を16回、企画展・写真展等を13回開催しました。また、市民団体との連携事業や出張講座等を10回開催しました。

■伝統文化親子教室事業支援

- ・お囃子や獅子舞などの市民団体11団体に対し、東京都の伝統文化親子教室事業補助金の申請支援をしました。

②文化財・市史編さん資料の保存、活用方法の検討

■文化財

- ・文化財の把握から調査により指定・登録を図り、保存、活用のための措置や支援を行うとともに、地域の歴史や伝統文化に触れる機会の充実を図りました。
- ・文化財保存団体育成事業費補助金交付制度で、獅子舞芸能保存会と西砂川松明伝承保存会の2団体に助成（無形民俗文化財として）を行っていますが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で獅子舞芸能保存会は活動ができなかったため、助成されたのは西砂川松明伝承保存会のみとなりました。

■市史編さん事業

- ・市史編さんに伴い収集した資料や市民から寄贈された資料の整理や保管、活用及び公開方法について今後検討を進めていきます。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 4 年度末	目標値 令和 6 年度末
ファーレ立川アートツアー参加者数※	1,811 人	2,311 人	2,331 人	2,700 人
ファーレ立川アート管理委員会 ホームページアクセス数（年間）	11,619**	31,778	47,457	35,000
立川市地域文化振興財団 ホームページアクセス数（年間）	181,609	149,976	156,157	165,000
歴史民俗資料館収集資料点数	13,119 点	16,589 点	18,348 点	17,200 点

※ファーレ倶楽部が主催するアートツアーの参加者を含む。

※※平成 27 年度の値を使用（平成 27 年度に開設したため）。

Ⅳ つなげる、ひろげる～文化芸術の波と輪を広げていく～

文化芸術活動の発展を目指し、さまざまな連携とネットワーク化等に取り組みます。

1. 文化芸術のネットワークを広げ、つなげる取組

①多様な主体や他の分野との連携・交流の促進

■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

- ・市民、文化団体、大学、企業、行政等で構成する文化芸術の支援団体としての立川文化芸術のまちづくり協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催ができずにいた10周年記念事業として、12/4（日）にシンポジウムを開催しました。文化政策関連の委員を多数務めている同志社大学教授の太下義之氏の講演や、文化振興推進委員会委員長である武蔵野美術大学 今井名誉教授、副委員長である国立音楽大学 瀧川准教授を交えてのパネルディスカッションのほか、観客を交えた交流会を行いました。

■たちかわ創造舎

- ・たちかわ創造舎が関わる市内および多摩エリアでの事業に、シェアオフィスメンバーがそれぞれの得意分野を生かした内容で関わるなど、文化芸術を通して地域の中での活動を展開しています。また、ほうかごシアターに国立市在住の演出家、山本タカ（くちびるの会）による「紙おしぱい」を実施するなど地域で活動するアーティストを起用するなどしています。

②文化芸術に関わる情報のプラットフォームづくり

■文化芸術のまちづくり協議会ホームページ

- ・文化芸術のまちづくり協議会が平成26年度に立ち上げたホームページ

「TACHIKAWABILLBOARD」で、アーティストやイベントの情報発信、地元企業の歴史などの紹介を行っています。ご協力頂く市民ライターの方13名の方には名刺を作成し、またLINEを使ったグループを運用し、いち早いリリース情報の共有と、取材希望のライターの募集などを行っております。記事配信力を強化するため令和3年度に

メールマガジン機能を設置し、情報発信の基盤を整えたところ、登録者数が12名の実績であり、今後、登録者数増加を目指します。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 4 年度末	目標値 令和 6 年度末
立川いったい音楽まつり 応募団体数	126 団体	357 団体	401 団体	500 団体
まちづくり協議会 ホームページアクセス数 (年間)	3,411	7,071	13,224	10,000